

## 2-10 笠井商店会と達磨市（慈光会）そして（だるま市保存会）

- 1) 平成4年（1992）笠井達磨市の応援団として（慈光会）という団体を創った。会長は久島實、副会長兼事務局長池田充義、会計田村滋治、副会長に奉賛会会長6代目山下吉十。会員100名 年会費3000円 独立会計で運用。
- 2) 平成6年（1994）笠井聖観世音菩薩（通称笠井の観音様）の御開帳を83年ぶり（明治44年以来）開催した。拝顔する参拝者は約5千人、朝9時～夜9時まで続いた。それだけ関心の深い事だと痛感した。（秘仏として伝えられていた）
- 3) 文久2年（1862年）<sup>とおとうみかわにし</sup>遠江川西三十三処内二十四番札所笠井村（<sup>かんこうざん ふくらいじ</sup>観光山・福来寺）

{<sup>あま</sup>天が<sup>した</sup>下 <sup>たず</sup>尋ね<sup>れば</sup> <sup>とおとうみ</sup>遠江 <sup>かさい さと</sup>笠井の<sup>里</sup>に <sup>ふか めぐみ</sup>深き<sup>恵</sup>を} <sup>ごえいか</sup>御詠歌がある

- 4) 福来寺は檀家が一軒もない寺ですので、笠井街道の商人の寄付金で、寺の行事を昔から行ってきた。現在も達磨市の収入が年間の財源となっている。
- 5) 明治時代からの資料によると、境内に、戸長役場。一人一基百句塚、消防小屋。大正、昭和時代は青果市場、屋台小屋、サーカス小屋、糸瓜集荷場、大師堂、明治23年の寄付単の石碑、明治44年の寄付単の石碑、大正12年の寄付単の石碑、大正4年の石碑、笠井小学校内泰安殿の礼拝門を移設。笠井町の中心として存在してきた、福来寺である。
- 6) 平成20年 笠井商店会の池田充義と田村滋治が、福来寺の総代となり、だるま市保存会の会長と副会長になり、達磨市の企画運営を委嘱された。老朽化した福来寺と本堂（だるま会館）の再生。境内整備をおこなった。笠井地域から活動をしてくれる人材が集まり運営している。笠井商店会は、達磨市というシンボルを旗印としてイベントを企画して実行してきた。